

演習問題1の解答 (環論)

演習問題 1-1 の解答

(1) $p = (a, b)$, $q = (c, d)$, $r = (e, f) \in A$ に対して,

$$p \cdot (q + r) = p \cdot q + p \cdot r, \quad (p + q) \cdot r = p \cdot r + q \cdot r$$

を確認すればよい. ここでは, $p \cdot (q + r) = p \cdot q + p \cdot r$ のみ示す.

$$\begin{aligned} p \cdot (q + r) &= (a, b) \cdot (c + e, d + f) \\ &= (a(c + e) + b(d + f), a(d + f) + b(c + e)) \\ &= (ac + ae + bd + bf, ad + af + bc + be) \\ &= (ac + bd, ad + bc) + (ae + bf, af + be) \\ &= p \cdot q + p \cdot r. \end{aligned}$$

(2) 次を示せばよい.

$$(1, 0) \cdot p = p \cdot (1, 0) = p \quad (\forall p \in A)$$

$p = (a, b)$ とすると,

$$\begin{aligned} (1, 0) \cdot p &= (1, 0) \cdot (a, b) = (1 \cdot a + 0 \cdot b, 1 \cdot b + 0 \cdot a) = (a, b) = p, \\ p \cdot (1, 0) &= (a, b) \cdot (1, 0) = (a \cdot 1 + b \cdot 0, a \cdot 0 + b \cdot 1) = (a, b) = p. \end{aligned}$$

(2) $p = (1, 1)$, $q = (1, -1) \in A$ とすると, $p \neq 0_A$, $q \neq 0_A$ だが,

$$p \cdot q = (1, 1) \cdot (1, -1) = (0, 0) = 0_A.$$

よって, A は整域でない.

(3) $(1, a) \in A^\times$ とすると, $(1, a) \cdot (b, c) = (1, 0)$ を満たす $(b, c) \in A$ がある. $(b + ac, c + ab) = (1, 0)$ より,

$$1 = b + ac = b + (-ab)a = b(1 - a^2).$$

よって $a^2 \neq 1$ で,

$$(b, c) = \left(\frac{1}{1 - a^2}, \frac{-a}{1 - a^2} \right).$$

逆に $a^2 \neq 1$ のとき,

$$(b, c) = \left(\frac{1}{1 - a^2}, \frac{-a}{1 - a^2} \right)$$

と置けば, $(1, a) \cdot (b, c) = (1, 0)$. よって, $(1, a) \in A^\times$ となる a の条件は $a^2 \neq 1$.

演習問題 1-2 の解答

$x, y \in A$ とすると

$$(x + y)^2 = x^2 + xy + yx + y^2.$$

A の仮定から

$$x + y = x + xy + yx + y.$$

よって $xy = -yx$. 仮定と定理 1-1 から $-1 = (-1)^2 = 1$. よって $xy = yx$. 従って A は可換環である.

演習問題 1-3 の解答

(1) 定理 3-1 の部分環の条件を確認する. $x = a + b\omega$, $y = c + d\omega$ ($a, b, c, d \in \mathbb{Z}$) とする.

(i) $x - y = (a - c) + (b - d)\omega$ より $x - y \in A$.

(ii) $\omega^2 - \omega + 1 = 0$ に注意すると,

$$xy = ac + bd\omega^2 + (ad + bc)\omega = (ac - bd) + (ad + bc + bd)\omega \in A.$$

(iii) $1 = 1 + 0 \cdot \omega \in A$.

以上より, A は \mathbb{C} の部分環である.

(2) $x \in A$ とすると,

$$|x|^2 = x\bar{x} = a^2 + (\omega + \bar{\omega})ab + b^2\omega\bar{\omega} = a^2 + ab + b^2$$

より, $|x|^2$ は 0 以上の整数である. $x \in A^\times$ と仮定する. $xy = 1$ を満たす $y \in A$ を取ると,

$$1 = |xy|^2 = |x|^2|y|^2$$

であり, $|x|^2, |y|^2$ は 0 以上の整数なので, $|x|^2 = 1$ が従う. よって $|x| = 1$

逆に $|x| = 1$ とすると, $x\bar{x} = 1$. また $\bar{x} = (a + b) - b\omega \in A$. よって $x \in A^\times$.

(3) $|x| = 1$ とすると,

$$1 = |x|^2 = a^2 + ab + b^2 = \left(b + \frac{a}{2}\right)^2 + \frac{3a^2}{4} \geq \frac{3a^2}{4}.$$

よって $|a| \leq 1$. 同様に $|b| \leq 1$. これらの不等式を満たす (a, b) で, $1 = a^2 + ab + b^2$ を満たすものは $(a, b) = (\pm 1, 0), (0, \pm 1), \pm(1, -1)$. よって

$$A^\times = \{\pm 1, \pm\omega, \pm(1 - \omega)\}.$$

演習問題 1-4 の解答

(1) 割り算の原理より

$$f(x) = q(x)(x^2 + 2) + ax + b \quad (q(x) \in \mathbb{R}[x], a, b \in \mathbb{R})$$

と表せる. $x = \sqrt{-2}$ を代入すると,

$$a\sqrt{-2} + b = f(\sqrt{-2}) = -8\sqrt{-2} + 5.$$

よって $a = -8$, $b = 5$ であり, 余りは $-8x + 5$.

(2) y の多項式として $y - x^2$ の次数は 1 なので,

$$f(x, y) = q(x, y)(y - x^2) + r(x) \quad (q(x, y) \in \mathbb{C}[x, y], r(x) \in \mathbb{C}[x])$$

と表せる. y に x^2 を代入すると

$$r(x) = f(x, x^2) = x^{10} + x^7 + 1.$$

演習問題 1-5 の解答

y の多項式として $f(x, y)$ を $y^2 - x^3$ で割ると,

$$f(x, y) = q(x, y)(y^2 - x^3) + a(x)y + b(x) \quad (q(x, y) \in \mathbb{C}[x, y], a(x), b(x) \in \mathbb{C}[x])$$

と表せる. ここで, $a(x), b(x)$ をそれぞれ

$$a(x) = \sum_{i=0}^{d_1} a_i x^i, \quad b(x) = \sum_{j=0}^{d_2} b_j x^j$$

と表す. このとき,

$$0 = f(t^2, t^3) = \sum_{i=0}^{d_1} a_i t^{2i+3} + \sum_{j=0}^{d_2} b_j t^{2j}.$$

$f(t^2, t^3)$ の奇数次の部分は $\sum_{i=0}^{d_1} a_i t^{2i+3}$ であり, 偶数次の部分は $\sum_{j=0}^{d_2} b_j t^{2j}$ となる. よって, $a_i = 0$ ($0 \leq i \leq d_1$), $b_j = 0$ ($0 \leq j \leq d_2$). 従って $f(x, y)$ は $y^2 - x^3$ で割り切れる.

演習問題 1-6 の解答

次を示せばよい.

$$a_0 + a_1 \sin x + \cdots + a_{n-1} (\sin x)^{n-1} = 0 \quad (a_i \in \mathbb{R}) \Rightarrow a_0 = a_1 = \cdots = a_{n-1} = 0 \quad (\text{eq1})$$

仮に a_0, a_1, \dots, a_{n-1} のいずれかが 0 でないとすると,

$$F(x) = a_0 + a_1 x + \cdots + a_{n-1} x^{n-1}$$

は零多項式ではない。よって、 $F(x)$ の根は多くとも $n - 1$ 個である。一方、 $F(\sin x) = 0$ であり、 $\sin x$ は閉区間 $[-1, 1]$ の任意の値を取ることから、 $F(x)$ は無限個の根を持つことになり矛盾。よって、(eq1) が成立する。

演習問題 1-7 の解答

(1) について。

(i) $f(x, y), g(x, y) \in I$ とする。 $f(a, b) = g(a, b) = 0$ より $f(a, b) + g(a, b) = 0$ 。よって $f(x, y) - g(x, y) \in I$ 。

(ii) $f(x, y) \in I, h(x, y) \in A$ とする。 $f(a, b) = 0$ より $h(a, b)f(a, b) = 0$ 。よって $h(x, y)f(x, y) \in I$ 。

よって I は A のイデアルである。

(2) $x - a, y - b \in I$ より $(x - a, y - b) \subseteq I$ 。逆に $f(x, y) \in I$ とする。割り算の原理から

$$f(x, y) = q_1(x, y)(y - b) + r_1(x) \quad (q_1(x, y) \in \mathbb{C}[x, y], r_1(x) \in \mathbb{C}[x])$$

と表せる。さらに、

$$r_1(x) = q_2(x)(x - a) + r_2 \quad (q_2(x) \in \mathbb{C}[x], r_2 \in \mathbb{C})$$

と表す。よって

$$f(x, y) = q_1(x, y)(y - b) + q_2(x)(x - a) + r_2.$$

$f(a, b) = 0$ より $r_2 = 0$ 。従って

$$f(x, y) = q_1(x, y)(y - b) + q_2(x)(x - a) \in (x - a, y - b).$$

よって $I \subseteq (x - a, y - b)$ 。以上より $I = (x - a, y - b)$ 。

演習問題 1-8 の解答

(1) $x, y \in \sqrt{I}, a \in A$ を取る。このとき、 $x^m \in I, y^n \in I$ を満たす自然数 m, n がある。

(i) まず、 $x - y \in \sqrt{I}$ を示す。

$$(x - y)^{m+n} = \sum_{i=0}^{m+n} \binom{m+n}{i} (-1)^{m+n-i} x^i y^{m+n-i}.$$

$0 \leq i \leq m+n$ に対して、 $i \geq m$ または $m+n-i \geq n$ 。よって $x^i y^{m+n-i} \in I$ 。これより $(x - y)^{m+n} \in I$ 。よって $x - y \in \sqrt{I}$ 。

(ii) また $(ax)^m = a^m x^m \in I$ より $ax \in \sqrt{I}$ 。

以上より \sqrt{I} は A のイデアルである。

(2) $10^2 = 100 \in (20)$ より $10 \in \sqrt{(20)}$ 。よって $(10) \subseteq \sqrt{(20)}$ 。逆に $x \in \sqrt{(20)}$ を取る。 $x^n \in (20)$ となる自然数 n がある。 x^n は 20 の倍数より素数 2, 5 で割れる。よって x も素数 2, 5 で割れる。従って x は 10 の倍数であり、 $x \in (10)$ 。よって $\sqrt{(20)} \subseteq (10)$ 。

演習問題 1-9 の解答

(1) について.

$$\begin{aligned} I \cdot J &= (5, 2 + \sqrt{-6}) \cdot (5, 3 + \sqrt{-6}) \\ &= (25, 5(3 + \sqrt{-6}), 5(2 + \sqrt{-6}), 5\sqrt{-6}) \\ &= (5) \cdot (5, 3 + \sqrt{-6}, 2 + \sqrt{-6}, \sqrt{-6}). \end{aligned}$$

ここで,

$$1 = (3 + \sqrt{-6}) - (2 + \sqrt{-6}) \in (5, 3 + \sqrt{-6}, 2 + \sqrt{-6}, \sqrt{-6})$$

より, $(5, 3 + \sqrt{-6}, 2 + \sqrt{-6}, \sqrt{-6}) = (1)$. 従って $I \cdot J = (5)$.

(2) K をイデアルとすると, $1 + \sqrt{-6} \in K$ より $7 = (1 - \sqrt{-6})(1 + \sqrt{-6}) \in K$. 従って

$$7 = ax + y(1 + \sqrt{-6}) \quad (x, y \in \mathbb{Z})$$

と表せる. これより $ax = 7$ が分かる. a は自然数より $a = 1, 7$ となる.

(1) $a = 1$ のとき,

$$K = \{x + y(1 + \sqrt{-6}) \mid x, y \in \mathbb{Z}\} = \{x + y\sqrt{-6} \mid x, y \in \mathbb{Z}\} = A.$$

(2) $a = 7$ のとき,

$$\begin{aligned} K &= \{7x + y(1 + \sqrt{-6}) \mid x, y \in \mathbb{Z}\} \\ &= \{(1 + \sqrt{-6})(y + x(1 - \sqrt{-6})) \mid x, y \in \mathbb{Z}\} \\ &= \{(1 + \sqrt{-6})(y + x\sqrt{-6}) \mid x, y \in \mathbb{Z}\} \\ &= (1 + \sqrt{-6}). \end{aligned}$$

どちらのケースでも K は A のイデアルとなる. よって $a = 1, 7$.